

二酸化炭素排出量の将来推計・削減目標、 目標達成に向けた重点施策について（案）

1. 将来推計

2030（R12）年度の二酸化炭素排出量について、特段の追加対策がない現状趨勢（BAU：Business As Usual）を想定し、2013（H25）年度を基準として将来推計を行った。

市が2018（H30）年に行った将来人口推計では、2027（R9）年をピークに緩やかに人口減少すると推計されており、これに伴って二酸化炭素排出量も2027（R9）年を境に減少に転じる見込みとなっている。

なお、各部門の算出の方法は次の考え方によった。

・産業部門

2030（R12）年度について、合計値に最終エネルギー消費（2030（R12）年度におけるエネルギー需給の見通し（資源エネルギー庁））の増減比（2013（H25）年比）を適用し、業種別に直近値（2019（R元）年度）の比率で按分。2019（R元）年度から2030（R12）年度までを平均化。

・業務部門、家庭部門、廃棄物部門、運輸部門（自動車）

人口規模に応じると想定。市の将来人口推計（中位推計）でピークとなる2027（R9）年度と、以降の2028（R10）年度、2029（R11）年度、2030（R12）年度について人口の増減比（2013（H25）年比）を適用し、2019（R元）年度から2027（R9）年度までを平均化。

・運輸部門（鉄道）

運行状況が変わらず直近値（2019（R元）年度）のまま推移と想定

・上記の合計により、各年度総排出量を算出

2. 削減目標

計画期間・目標年度・基準年度については、国の目標達成を意識した計画として
いることから、数値目標も国の目標と整合性を持たせたい。

⇒短期目標は、2030（R12）年度に2013（H25）年度比46%削減としたい。

長期目標は、2050（R32）年度に二酸化炭素排出量実質ゼロとしたい。

※環境審議会の資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

3. 目標達成に向けた重点施策

将来像や基本方針は旧計画を基本とし、必要な見直しを行う。重点施策についても、現在の流山市の情勢等を考慮して旧計画を継承したい。

- ・流山市が目指す将来像

2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す

※「低炭素都市ながれやま」を「脱炭素都市ながれやま」へ変更したい

- ・基本方針

「ソフトパワー（市民や事業者の意識・行動改革による実践行動）」の活用による「脱炭素都市ながれやま」の実現

- ・重点施策

二酸化炭素排出量の多い、民生家庭部門・民生業務部門における電力消費の削減や運輸部門の自動車対策を中心に、5つの分野を設定したい。

- ①市民・事業者との協働による省エネルギー生活への転換の推進
- ②再生可能エネルギーの活用
- ③環境負荷の大きい自動車からの転換
- ④廃棄物の発生抑制と資源循環
- ⑤緑地保全と都市緑化による二酸化炭素吸収源対策

各部門で排出比率の多い項目について、重点的に施策を設定することが効果的である。また、旧計画を引き継ぎ、市民生活に身近な廃棄物についても、重点施策とする。加えて、生物多様性や緑地の保全を推進する観点からも、都市緑化を重点施策に加え、多角的な市民・事業者の取り組みを推進する。

【2019（R元）年度の市域の部門別排出量推計】
(千 t-CO₂)

部門		2019年度 CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	部門に おける 比率
産業	製造業	71.7	88.0%
	建設業・鉱業	6.4	7.8%
	農林水産業	3.4	4.2%
		81.5	
民生 家庭	灯油	9.4	4.7%
	LPG	10.5	5.2%
	都市ガス	37.5	18.6%
	電力	143.6	71.4%
		201.1	
民生 業務	重油	7.3	4.8%
	灯油	8.8	5.8%
	LPG	0.9	0.6%
	都市ガス	16.8	11.1%
	電力	116.5	76.8%
	熱	1.4	0.9%
		151.6	
運輸	自動車(家庭以 自家用乗用)	51.5 109.0	30.1% 63.7%
	鉄道	10.5	6.1%
		171.0	
廃棄物		21.1	
合計		626.3	